

「点検・評価に関する有識者」からの意見

◎上地多恵子氏より

◎棚原正榮氏より

◎比嘉悦子氏より

4. 「点検・評価に関する有識者」からの意見

◎上地多恵子氏より（教育委員の活動及び教育部に対して）

【教育委員の活動に関する総合所見】

点検評価書とレクチャーから、定例会23回、臨時会6回、全学校訪問（16回）、研修会や学校行事や各種行事・大会への参加の回数から、積極的・精力的な取り組みが伺える。

自治会長会との懇談会や学校訪問は、現場の声に耳を傾け、理解を深めようとする姿勢が伺え敬意を表したい。

教育の3領域である、学校教育、社会教育、家庭教育の連携を図る上で、家庭教育の第一義的責任を有する保護者とより一層の連携を図ることや、浦添市が目指す「まちづくり生涯学習」の実現に向けて、社会教育関係団体との情報交換や意見交換会が計画的に実施できる事を希望する。

【総務課所管事業に関する総合所見】

今年度、幼稚園3園、小学校1校の校舎改築と2校の屋内運動場の改築、プールの改築事業が取り組まれ、幼児・児童、教職員が安全・安心で快適な学校生活が送れているものと推察できる。プール改築では、健康管理面から紫外線対策がなされており、先駆的取組として評価できる。校舎改築については、地域住民の生涯学習活動の場としての活用を予定した地域コミュニティとしての「地域・学校連携施設」を整備し、「太陽光発電設備」を導入して、教材として活かす工夫がなされる等、担当課及び関係者の尽力を高く評価する。

経年により発生する施設の損耗、機能低下に対する復旧措置の実施に終わりはなく、今後とも、幼児・児童・生徒の体位、体力・学力の向上に大きく影響を及ぼす学習施設の整備事業が積極的に進められることを希望する。

【社会体育課所管事業に対する総合所見】

スポーツは、体力の向上や心身の健康の保持増進に寄与するとともに、市民に多くの夢や感動を与え、活力あるまちづくりの形成に大切な役割を果たしている。点検評価書や資料から、スポーツイベントへの参加人数の増加や多様な生涯スポーツの取り組みが伺え、スポーツを推進していくうえで評価できる。

学校体育施設開放事業については、地域住民にとって最も身近に利用できるスポーツ施設であり、共同利用の促進が伺えた。

体育施設管理・運営事業の施設の老朽化が進んでいる事について、使用者の視点から、施設の老朽化はサービスの低下につながるので、計画的・積極的に整備を進めて頂きたい。

市民の健康づくりは、市民まかせにせず行政が責任もって取り組むべき重要な課題である。スポーツ団体をサポート・育成し、関係部局とも連携強化を図りながら市民のニーズに応えて頂きたい。

【放課後子ども教室推進事業（生涯学習振興課）】

多くの子ども達が安心して過ごせる居場所づくりとして、地域の実情に応じた多種多様な実体験プログラムが展開されている。地域の大人や異学年との様々な体験、交流・遊びは、子ども達にとって豊かな人間性、社会性が育まれる事業であり高く評価できる。

市内の全小学校、自治公民館、児童センターで取り組まれ、それを支える学習アドバイザー、安全管理員、ボランティアの協力は地域の教育力の活性化に繋がっている。

広報の在り方については運営委員会の中で検討し、改善実施を期待する。

【まなびフェスタ浦添事業（生涯学習振興課）】

本事業は一年間の学習成果を発表する場であり、広く市民に生涯学習の普及啓発を図る場でもある。学びの成果やまちづくり生涯学習等に関する様々な参加型の発表・交流の機会を展開でき、各種生涯学習実践団体等の活性化を目指すとともに、生涯学習の一層の推進が図られることは評価できる。

まちづくり生涯学習の推進をはかる上から、市民のボランティア活動、地域づくり等の学習テーマも取り上げた内容を検討して頂きたい。

【てだこ学院大学院委託事業（生涯学習振興課）】

市の高齢者が教養を高め、学習の喜び、仲間づくりや役割さがしの場となる本事業は、多種多様な学習プログラムが開設されている。学習成果が社会参加意識の高まり、ボランティア活動などの自助や互助の実践が盛んになることを期待する。

【学校支援地域本部事業（生涯学習振興課）】

本事業は、学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上をねらいとして行われている。学習の支援者、部活動指導、環境整備、安全指導、学校との合同行事等、地域ボランティアの理解と協力体制が図ら

れ、活動の成果が現れていて「地域ぐるみで子どもを育てる体制」が構築できていることは高く評価できる。

今後、教員や地域の大人が子どもと向き合う回数や時間が増える事や地域住民が自らの学習成果を生かす場づくりを工夫し、地域の教育力の向上を推進して欲しい。

【てだこ市民大学事業（生涯学習振興課）】

「まちづくりはひとづくり」発展の原動力は「人」であり、「人」は財産と言われます。

その「人」づくりは教育が担っていくものである。本市が目指している「まちづくり生涯学習」基本理念の下、その実現を図る「市民大学」が一期生の卒業生を送り出せた事に、事務局及び関係者の熱意と努力を高く評価する。

市民と行政による協働のまちづくりを推進するには、地域をコーディネートするキーパーソンの育成は有効な事業であり、市民大学の理念・目的そのものである。卒業生の活動が、地域力の向上に繋がっていく事を期待したい。

今後、課題について速やかに検討し改善実施して頂き、学習成果をまちづくりに活かす具体的な仕組みや方策について、検討事項として提案したい。

【公民館事業運営（公民館及び分館）】

市民の学習ニーズは多様化・高度化の方向にある。また、学習行動も積極的・意欲的で活発に活動している。中央公民館では17講座、分館においては10講座が開催され、学習提供や、学習相談・情報提供もなされ「まちづくり生涯学習」の実現に向けた取り組みがなされている。また、利用者団体やサークルの活動成果を、ボランティアとして子育て支援や地域社会へ積極的に還元する役割、分館での若者の出番づくり等も高く評価する。

身近な日常生活の圏内にある自治公民館講座も、地域ニーズや生活課題に応える講座が実施され、地域活性化につながっている。

公民館は、個人の需要と社会の要請の両者のバランスを保つ講座や地域NPOとの協働による「新しい公共」を推進する講座企画も期待する。

学習相談、講座の企画、利用団体やサークルの支援、自治公民館の開設支援や講座内容への支援等多忙であるが、学習に参加できない、しない、させたい人へのアプローチや居場所づくりは課題であり取り組みの必要が望まれる。その為には、公民館職員の人的配置の増を検討して頂きたい。

以上

◎棚原正榮氏より（教育委員の活動及び指導部に対して）

【教育委員の活動】

1 委員一人一人が教育委員会の活動を振り返り、成果、課題、感想などを文書にまとめた意義は次の点で大きいと思う。

- (1) 教育委員の職務が市民に見え、説明責任が果たせる。
- (2) 委員としての自覚を深め、職務の更なる充実につながる。
- (3) 事務の点検・評価について改善が図られ、浦添市教育委員会の独自な方法を見出すことにつながる。
- (4) 浦添の教育の特色にさらに輝きを与える。

2 委員一人ひとりの作成文書を見て、次の活動等に対して熱意を持って取り組んでいる様子が伺える。

(1) 学校訪問

授業参観を通して、児童生徒の学習状況や学習環境、先生方の授業の工夫などを見て、それぞれの学校のすばらしさを確認し、児童生徒や教職員を激励する機会となる。

テーマを持ての学校訪問は、浦添教育の課題解決につながり、新たな課題を見出す場ともなる。

(2) 教育委員研修

市町村教育委員会連合会研修では、三つの分科会があって、それぞれの分科会のテーマに沿ったレポート提出があるようだが、浦添市教育委員会では教育委員自身がレポートを書いて提出していることがすばらしいと思う。

レポートを書くことそのものが参加意欲の現れであり、このことが研修会を意義深いものとし、研修で得ることも多くなるはずである。

(3) 学校行事等への参加

入学式や卒業式などの儀式的行事、運動会や文化祭、さまざまな発表会などがある。

教育委員が諸行事に参加することは、その行事一つ一つに重みを与え、時には空気を引き締め、時には華やいだ雰囲気を一層高める。

各学校ではそれぞれの行事に創意を凝らした場の設定をする。先生方や児童生徒のがんばる姿があり、そして、支える父母の姿などがある。それらを確認しつつ教育委員が激励を与える場となる。

その他、市の行事、PTA行事、地域行事等、教育委員が参加する行事は多く、それぞれ行事に参加している各委員の姿がよく分かる。

3 要望したいこと

次の3点で、点検・評価のあり方等を再点検してほしい。

(1) 教育委員としての点検・評価

上記1, 2では、特に委員の頑張っている姿を書いたが、作成した文書には多くの課題も見える。もっとも重視すべき「教育委員会の会議」においてはマンネリ化の傾向も見え、会議に対する委員の姿勢にも問題点が見える。

また、「委員会の事務の管理及び執行状況についての点検及び評価」については、教育委員一人一人が最もよく理解しなければならないはずだが、そうではないように見える。

これらの解決のために、次のことに力を入れる必要があると思う。

- ① 新任教育委員へのレクチャー
- ② 教育委員の合同研修会の定例化
- ③ 教育委員、その職務などを規定する法律と条例等への理解を深めること

ア「教育行政の組織及び運営に関する法律」を中心にした関連法規

イ 教育委員会会議規則、学校管理規則、教育長事務委任規則、他

ウ 教育委員会推進事業

(2) 組織的な点検・評価

地教行法第27条のねらいは、教育委員会と事務局を含めた全体の組織的な点検・評価を期待していると理解している。

もしそうならば、教育長は教育委員としての点検・評価、教育長の職務についての点検・評価が求められるはずであり、各部の部長についても同じことが言えるだろう。

この地教行法に規定する事務の点検・評価について再検討してほしい。

(3) 教育に関する学識経験者

「・・・事務の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するものとする」(地教育行法律第二十七条二項)となっているが、その学識経験を有する者とはどのような人をさすのか、

ということも再点検する必要があると思う。どのような知見を持った人なのかということ具体的に示してほしい。

《指導部に対して》

【県外派遣事業（学務課）】

児童生徒の運動競技や文化活動への意欲を高め、ひいては人材育成につながるものとして本事業の意義は大きい。

平成 22 年度は震災の影響で大会の中止や辞退者が出たようであるが、児童生徒が県代表を目指す意欲は相変わらず高い。本市はハンドボール王国宣言もあって、他のスポーツ活動や文化活動への波及効果も大きい。

本事業の成果と課題も明確になっていて、特に財源確保をどのようにするかが問われているようであるが、継続できる方策を見つけてほしい。

【幼稚園就園奨励事業（学務課）】

義務教育へのスムーズな移行、幼稚園教育の奨励、保護者負担の格差是正を目的とした本事業の意義は大きい。

子育て支援策としての効果などの成果を明確にしている。課題も整理されているのでその一つ一つを解決して、園児たちの教育がさらに充実していくことを期待する。

【育英会補助事業（学務課）】

経済的理由で就学困難な学生を支援し人材育成に寄与している本事業は大きな役割を果たしてきた。

大学卒業生の就職困難な社会状況もあって、貸与生の償還期間の延期や滞納者が増え、財源捻出に苦勞しているということもよく理解できる。

本事業がこれまで果たしてきた役割と意義をふまえて、事業を継続させる方策が生み出されることを期待する。

【就学援助事業（学務課）】

教育の機会均等を保障する制度で、保護者の経済的理由によって就学困難な児童生徒への就学援助事業、特別支援学級に通う児童生徒の保護者の経済負担軽減を図る就学奨励事業である。

平成 18 年度から本市の単独事業となって継続できていることは、教育を重視する本市施策の特色の一つとなっている。

財政上の課題も大きいようだが、継続できるよう鋭意努力してほしい。

【小中学校管理運営事業（学務課）】

児童生徒の登下校の安全、校内の安全管理および学校支援活動等を通して安全安心な環境を整備する事業であり、浦添教育の誇るべき特色の一つである。

スクールサポーターは、児童生徒の安全管理と共に、学校の教育環境の整備にも大きな役割を果たしている。地域の青年会の活用を通して、地域力を高めることにもつながっている。

課題もあるようだが、解決しつつ浦添教育の充実発展等に寄与してほしい。

【特別支援教育事業（学校教育課）】

特別な支援を要する幼児児童生徒に教育的援助を行う事業である。

認定就学者等巡回指導員、市特別支援教育コーディネーター、特別支援教育ヘルパーを活用して、大きな成果を挙げている。ヘルパーを増員したことも大きな成果につながっている。

課題もあるようだが、一つずつ解決して、特別支援教育がさらに充実していくことを期待する。

【幼稚園教育事業（学校教育課）】

2年保育・預かり保育事業と幼稚園推進事業を推進しているが、いずれにおいても大きな成果を挙げている。

2年間の保育活動における幼児の成長ぶりを明らかにし、障害児学級と通常学級との統合教育の成果、指導法の工夫による成果などを明確にしている。

課題を克服しつつ、幼稚園教育事業がさらに充実していくことを期待する。

【学力向上対策事業（学校教育課）】

学力向上対策は、長年にわたって沖縄全体で取り組まれてきた。浦添市でも県の施策にも対応しつつ独自の創意工夫で鋭意取り組んできた。

その成果は明らかである。全国学力・学習状況調査、県到達度調査、基本的生活習慣、平均読書冊数、「豊かな心」「健やかな体」の育成について大きな成果を挙げている。

課題を克服しつつ、さらに大きな成果を挙げることを期待したい。

【外国語指導事業（学校教育課）】

文部科学省教育課程特例校を受けて、国際理解教育・英語教育の充実を図り、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を向上させるために創意ある取り組みを進め、大きな成果を挙げている。

英語指導助手派遣による成果、県到達度調査と英語の意識調査での大きな成果が見える。海外短期留学生派遣事業と市英語発表会での成果、他の事業による成果も明らかである。

課題を克服して、更なる成果に期待したい。

【セカンドスクール事業（学校教育課）】

本市独自の事業である。小学五年生はセカンドスクールにおける自然体験、野外活動、農業・漁業体験などを通して、チームワーク、環境保全の大切さ、働くことへの理解を深めるなど、多くのことを学んできた。終了後の心の成長などもあって大きな成果を挙げている。

体験活動の充実をはかるなど、一層の成果に期待したい。

【教育相談事業（学校教育課）】

市内全小中学校に心の教室相談員を一人ずつ配置して、不登校、問題行動、いじめ等の減少及び解消を目指す事業である。

心の教室相談員が児童生徒や保護者、教職員からの相談を受けながら、問題解決を目指してがんばっていて、年々、着実な成果を挙げている。

特に、中学校において不登校が減少し、いじめが小中学校とも減少しているという成果が目立つ。

心の教室相談員と教職員との連携・協力を深めつつ、更なる成果に期待したい。

【小中学校水泳プール管理委託事業】

安全管理、水質管理、衛生管理を委託する事業である。

水泳の授業に専念できる状況ができていて、よい成果を挙げている。

【青少年センター運営事業（こども青少年課）】

これまで、教育相談事業は、青少年センター、学校教育課、教育研究所の三つの部署が担当して、重複した取り組みもあったと思う。こども青少年課が設置されたことによって相談窓口が一本化され、担当業務も整理されて効率的に業務が遂行されるようになった。

相談活動がスムーズに行われるようになって、電話相談の増加、来所相

談の増加など多くの成果を挙げている。

教育相談員を1名増員できたことも、定期相談の増加、定期相談生のステップアップにつながっている。

巡回街頭指導、環境浄化、不登校対策においても多くの成果を挙げている。

それぞれの事業において、課題も多いようであるが一つ一つをクリアして更なる成果に期待したい。

【浦添市・中国泉州市小中学生交流事業（こども青少年課）】

本市の特色ある教育活動の一つである。

両市の児童生徒が隔年毎に訪問しあい、お互いの歴史、文化などに触れつつ交流と相互理解を深め、国際性豊かな人材育成につながる事業となっている。

児童生徒の感想からもこの事業の意義の大きさが分かる。

課題を克服しながら、更なる成果に期待したい。

【浦添市少年の船事業（こども青少年課）】

他の市町村がこの種の事業を維持継続できなくなって後も、本市が長年にわたって取り組んできた特色ある事業の一つであり、事業の目的にそって、小・中・高生の成長に大きく寄与してきた。

本事業が今後とも続いて、更なる成果を挙げていただきたい。

【研修講座事業（教育研究所）】

長期教員研修、短期教員研修、ICT出前講座、それぞれの事業において大きな成果を挙げている。

長期教員研修を修了した教員は学校に戻って、自らの高い指導技術を発揮しつつ校内研修などの中核となり、学校の活性化と学校経営にも大きく寄与する存在となってきた。

中堅教員研修講座の受講生も増加して、コンピュータを活用した授業のできる教員の割合が小中学校とも非常に高い割合を示している。各種コンピュータ関連講座を受講した教員が増加したことにも関係していると思われるが、基本的には教育研究所がこれまで積み上げてきた大きな実績・成果によるものである。

【教育相談事業（教育研究所）】

教育相談窓口が一本化され、担当課や教育機関がそれぞれの業務に専念

できる体制となった。

児童生徒の内面に配慮して円滑な移行を目指して、適応指導教室の活動を教育研究所内に置いたことは、生徒と父母に対しての良き配慮だと思う。

さまざまな体験活動、個に応じた指導、コンピュータ学習などで多くの成果を挙げている。中学3年生が全員高校進学できた成果も大きい。

更なる成果に期待したい。

【教育振興事業「小学校」「中学校」コンピュータ等の整備関連事業（教育研究所）】

研修講座事業に対応して、コンピュータ整備関連事業も同時に進めていて、長期研修や短期講座などで修得した先生方の技能がすぐに現場で生かせるようになっていて、

教師の指導力の向上、児童生徒のPC活用能力を高め学力向上などにつながるという大きな成果に結びついている。

第三次浦添市情報教育推進計画の総仕上げに向かう時期であり、重点施策である情報教育の推進を目指した事業である。

前年度は電子黒板の整備があった、やがて電子教科書の導入も予定があるとのこと、これらの情報機器の整備がさらに学校の教育力を高め、児童生徒の大きな成長につながることに期待したい。

【小学校校内LAN環境整備事業（再編交付金）】

四小学校で校内LANをリニューアルして、安定したネットワークサービスを提供している。

ネットワーク環境が悪い学校への整備計画を着実に進めていただきたい。

《指導部に対する総合所見》

（１） 学務課

県外派遣事業、幼稚園就園奨励事業、育英会補助事業、就学援助事業、小中学校管理運営事業を取り組んで、それぞれに着実な成果を挙げている。幼稚園から小中学生への援助事業、県外派遣事業、大学生への就学支援など幅広い分野にわたっての事業を推進し、それぞれの事業について細かに点検・評価を行い、成果と課題を明確にしている。

更なる成果に期待したい。

(2) 学校教育課

特別支援教育事業をはじめ、7つの事業を取り組んできた。それぞれの事業に工夫を凝らした取り組みで大きな成果を挙げている。

文部科学省教育課程特例校の指定を受けての英語教育の推進、海外短期留学派遣事業、学力向上対策の成果、セカンドスクール事業など本市教育の特色を鮮明にしている。事業担当それぞれの熱意と創意に満ちた取り組みがある。

事務の点検・評価も分かりやすく整理され、成果と課題を明確にしている。分かりやすい。

(3) こども青少年課

新しく設置された課で、青少年センター運営事業、浦添市・中国泉州市小中学生交流事業、浦添市少年の船事業を取り組んできた。

特に、従来三つの部署が担当した教育相談活動を一つの課が担当することになって、相談する側にとっても大変都合よくなったと思う。その結果、相談活動が増加するなど大きな成果がある。教育の中で大変難しくしかも根気の要る事業を担っているが、着実な成果を挙げている。

一つ一つの事業の点検・評価も分かりやすく、成果と課題が明確である。さらなる成果に期待する。

(4) 教育研究所

研修講座事業をはじめ四つの事業を取り組んできた。

特に研修講座事業が教育研究所の中心となる事業であり、長期研修講座、短期教員研修、ICT出前講座を通じて大きな成果をあげてきた。

長期研修修了者がこれまでに180名余を数え、修了した先生方が各学校の教育力向上のための中核を担ってきた。本年度は、長期研修の他に短期教員研修、中堅教員講座、出前講座などを実施して教員の指導力向上にさらに大きな成果を挙げている。

情報教育は、本市教育施策の大きな柱の一つであるが、教職員のコンピュータ活用能力の向上にも大きな成果があり、本市教育の特色を鮮明にしている。

一つ一つの事業についての事務の点検・評価も分かりやすく、成果と課題も明確である。

ホームページで、すでに平成24年度特別教育研究員募集要項、そ

の他を出しているのも教育研究所らしい。諸事業の成果に期待する。

以上

◎比嘉悦子氏より（教育委員の活動及び文化部に対して）

【教育委員の活動】

1. 教育委員会の会議

教育委員は年間 23 回の定例会、7 回の臨時会、その他の会議、研修会への参加、そして学校訪問、学校行事、浦添市のその他の行事に参加するなど、非常勤とはいえその時間的束縛は短くなく、浦添市の教育全般について委員各人の長年の経験を生かしながら真摯に取り組んでいる様子がうかがえる。

本来の定例会議では教育の方針、課題等について協議されたということだが、委員の報告から議事案件資料の事前入手を望む声が上がっているので、事務局はこれに対処できるよう努力する必要がある。

2. その他の会議、研修会への参加

教育委員のその他の会議、研修会への参加として①沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会、②沖縄県市町村教育委員研修会、③教育委員研修会、④那覇地区市町村教育委員会連合会の会議等に参加しているが、他市町村の教育委員との交流を深め、意見交換できることは意義あることである。教育委員の研修も委員各人の見識を深め、資質向上につながり今後も継続してこのような会議、研修会へ参加することを望む。委員から都市地区と離島地区間に意見のかみ合わない部分もあった報告がなされているが、教育問題については都市区の問題も離島区の問題も同じ沖縄県下の教育委員としてより幅広い視野に立つ必要があり、有意義だと思われる。

3. 学校訪問

教育委員が実際に学校現場（小・中学校全 16 校）におもむき、教育現場の現状を目で見、肌で感じることでできる学校訪問は必要不可欠な要素だと思われる。毎年テーマを決めて学校側と意見交換をしているようだが、平成 22 年度のテーマは道徳授業の参観と学習支援ボランティアや学校支援のための現状と課題について話し合われた。その他不登校児の問題にも直面し、それぞれの委員が非常に意義深い意見交換ができたと評価している。

学力向上対策実践発表会や指定研究発表会にも参加しているが、当事者の熱心さに比べて保護者の参加が少ないこと、また学対発表会への教職員の参加者が少なかったことが課題として上げられる。全国最下位にある沖

縄の学力に関する問題は学校現場、家庭、自治体などが真剣に考え取り組まなければならない問題だけに、優先順位を上げて地域社会全体を巻き込んだ学習支援ボランティアの組織作りに早急に取り組む必要がある。

4. 学校行事への参加

学校行事への参加は入学（園）式、運動会、学芸会、卒業式への参加であるが、各教育委員が感動の場面に接しながら子供たちの成長の過程を見守っている。学校行事では授業参観等と比較して保護者の参加も多いようだが、大人のマナーの悪さも目立つようで（喫煙など）、保護者の成人教育等についても今後学力向上問題と併せて考慮する必要があるかもしれない。

また、中学校における学校行事では保護者の参加が急激に減少し、卒業式にさえ来ない保護者がいると聞くのは心の痛い問題である。

5. 各種行事、大会等への参加

教育委員は教育関係行事だけでなく、浦添市が主催する行事、またその他の関係団体が主催する関連行事等にも参加している。てだこまつりや新年祝賀会、消防出初式は別として、てだこ市民大学入学式、夜間街頭指導、青少年を健やかに育てる浦添市民総決起大会、少年の船結団式、出発式、解団式、泉州市訪問団結団式、市小中陸上競技大会、市こども会まつり、成人式、市婦人連合会との教育懇話会はすべて教育に関する重要な行事であり、各団体で活動する地域の人々との交流が図れる良い機会である。最近では学童保育に関する問題も山積しており、保護者と関係者による学童保育を考える会などが各地で開催されているようなので、そのような団体との意見交換会なども必要ではないかと思われる。

【文化振興事業（文化課）】

浦添市の文化振興事業は市民、行政、有識者で構成された「浦添市文化芸術振興事業協議会」の意見を反映した事業計画を作成し、その事業を展開するために浦添市文化芸術振興事業実行委員会に補助金を交付して平成 22 年度の 5 事業を実施している。（①ジャズイン浦添、②浦添史劇～舜天王の誕生～、③第 16 回浦添市小中学生音楽祭、④子どもオペラワークショップ、⑤NHK のど自慢大会）

平成 22 年度は市制 40 周年記念の年ということで、記念事業として「浦添史劇～舜天王の誕生～」を上演しているが、2 回公演（6 月 26、27 日）にもかかわらず満席の盛況であった。また、出演者として多くの市民が参

加し、以前から要望のあった市民参加の舞台公演が実現されたことは評価できる。更に、40周年記念事業として「NHK のど自慢大会」を誘致しているが、浦添市とてだこホールを全国にアピールできてよかったと思う。

継続して行われている「小中学校音楽祭」はオーディション（平成 23 年 1 月 22 日）に 57 人が参加し、音楽祭（2 月 26 日）には 700 人の観客を集めている。この事業は浦添市の若き音楽家たちを育てて行く上で重要であり、今後も継続して開催されることが望ましい。「ジャズイン浦添」（7 月 17 日）はまんねり化が懸念される継続事業であったが、平成 22 年度はてだこまつり開催中に行われ、場所もてだこ広場における野外コンサートとなって、多くの市民により親しみやすく解放されたことを評価したい。

「子どもオペラワークショップ」も市制 40 周年ということでこども文化連盟のワークショップと連携させて実現した新しい挑戦であった。これまでの演劇舞台に歌唱を取り入れてミュージカル風な舞台展開を行ったこと、また、題材が「アオリヤエ」という尚寧王王妃の物語で、浦添市の歴史やようどれについて学ぶ良い機会でもあった。

その他、浦添市文化協会、浦添市こども文化連盟、浦添市・台北中山区文化教育交流事業等にも補助金を出しているが、それぞれの団体を通して幅広い文化活動が促進されており、浦添市の文化振興に大きな成果をもたらしている。

【てだこホール管理運営事業（文化課）】

平成 19 年 4 月にオープンした浦添市てだこホールは指定管理者制度を導入して管理運営している市の施設であるが、施設そのものの評価も高く、民間管理者による効率的な運営も功を奏して全館稼働率が 97,91%という県下でも利用度の高い会館として知られている。利用件数及び利用収入も右肩上がり年々増加しているが、今後これ以上稼働する場合、管理者への負担が増えてサービス低下につながらないかという懸念も出てくる。利用方法、申請手順の簡素化等を含めた合理的な運営方針の見直しも課題となってくるであろう。

【史跡浦添城跡・登録祈念物保存修理事業（文化課）】

史跡浦添城跡整備事業は 4 期 35 年の計画で実施されており、現在は平成 18 年度から始まった第Ⅱ期事業の 5 年目にあたる。平成 22 年度は地質調査や、為朝岩（ワカリジー）のレーザー計測、出土遺物の自然科学分析、遺構の発掘調査等を行っている。城壁等遺構確認の発掘調査において外郭

南地区の内郭で長さ約 28m、城壁外郭では面積約 3.4 m²の石畳等が確認されており、自然科学分析から得られる時代測定など、成果は着々と上がっているものと判断する。このような事業は時間と手間のかかるもので、気長な取り組みと正確なデータ収集の積み重ねに期待したい。しかし、その調査の経過状況、成果については一定の区切りで市民に公開し、知らしめる方法を工夫する必要もあると思う。

【浦添市内遺跡発掘調査事業（文化課）】

浦添市（旧浦添間切）は王都首里に隣接するため、首里士族等の近世墓が多数点在する。市内における大規模開発にともなって文化財の有無を確認する試掘、範囲確認調査は必須事項であり、その調査から得られる基礎資料は開発業者と文化財の保存に関する検討・協議を行う上で重要である。

平成 22 年度は浦添南第一土地区画整理事業地内で「前田・経塚近世墓群」地区内において 155 基が確認されており、県道浦添西原線建設事業地内の東空寿近世墓群の範囲確認調査では 97 基の掘込墓が確認されている。また、西海岸に計画されている臨港道路建設事業地においては「石切場跡」が確認されており、石切に伴うノミ状の工具痕も確認された。

また発掘調査だけではなく、平成 14 年度の発掘調査で出土した浦添ようどれの石灰岩製石厨子の経年劣化を防止するための恒久的保存修理も行っている。

浦添市の諸開発にともなう文化財遺跡の確認、発掘、そして保存を考える調整作業は今後も続く課題なので、文化財保存を考慮した適切な対応を図って頂きたい。

【うらおそい地域文化財保全整備事業（文化課）】

市総合計画の「歴史がいきづく文化の薫り高いまちづくり」を推進するための事業で、平成 22 年度は史跡「浦添御殿の墓」の発掘調査および次年度の復元整備に向けた実施設計などを実施している。

浦添御殿の墓は尚穆王の第二子、尚図（浦添朝央）を始祖とする浦添家の墓で、18C 末の造営の大きな亀甲墓で浦添市澤岬に存在する。平成 19 年 3 月に浦添家の子孫から浦添市に寄贈された。浦添市は周辺を含めた調査・整備を行って文化財保存し、周辺地域を緑地公園にする計画を持っている。その観点からも今年度の詳細な発掘調査および復元整備にむけた実施設計は必要なものであった。平成 20 年 2 月に市民見学会を実施しているが、今後も文化財めぐりなどで市民や子供たちの歴史学習に活用できるよう便宜を図ることが課題となる。

【市立図書館運営等事業（図書館）】

図書館運営事業は、単なる図書の貸し出しだけでなく、図書館法に則った講演会、展示会などの事業、及び広報活動にも力を入れなければならない。浦添市立図書館は平成 20 年度に図書館コンピュータを整備し、平成 21 年から平成 23 年度までの 3 カ年計画で YA(ヤング・アダルト)世代に対する読書推進活動として文芸賞を設けるなどして、確実に図書館の利用者と貸出件数を増加させている。(対前年度比 2.6%増) また、市立図書館児童図書等整備事業(光を注ぐ交付金)を受けて、約 4 千冊の幼児・児童関係図書を整備し、児童図書の貸出冊数を前年度に比較して 14%増加させている。これは評価に値するものである。

浦添図書館の場合、沖縄学・郷土・移民史関係調査・研究に対する資料提供等の活動も行っており、古文書の収集と廃棄処分された行政文書を歴史資料として整理保存、活用する事業(歴史資料の収集と保存活用事業)に継続して取り組んでいる。平成 23 年度には「世界のウチナーンチュ大会」が開催され、多くの移民関係者が里帰りすることなので、特に浦添市移民史編集刊行事業は重要となるものと期待する。

【美術館運営事業（美術館）】

県内で唯一の市立美術館である浦添美術館は琉球漆と漆工芸品に特化した美術館で、日本全国にもその名が知られているが、平成 22 年度は浦添美術館の 20 周年と市制 40 周年を記念して「近・現代日本漆の美展」を開催し好評を博した。東京国立近代美術館をはじめとする国の関係機関をはじめ、漆工芸品を多く所有する石川県、香川県の美術館等から約 90 点の作品を借用し、明治から現代にいたる代表的作家の作品を展示するなど、沖縄ではめったに見る事のない貴重な作品を展示して、圧巻であった。事業費は 8,616,111 円となっているが、予算以上の成果であり、この事業を可能にするために奔走した学芸員たちのご苦勞に敬意を表したい。

その他、①教育普及活動、②美術館運営事業、③美術館管理事業、④美術品収集事業は例年通り行われているが、②と③にかかる経費の比重が大きく、④の美術品収集事業の予算がわずか 15 万円というのはおそまつである。今後指定管理者制度を取り入れるなどの検討をし、運営事業費と美術館管理事業費を軽減して、それをより品度の高い美術品収集にかけることも必要かと思われる。

以上

お わ り に

地教行法の改正に伴い平成 20 年度から実施した教育委員会点検・評価については、初めての取り組みであったこと、加えて評価の指標、様式などその方法が国からは示されず、各教育委員会が独自に決定するとされたことにより、教育委員及び教育委員会職員とも試行錯誤の連続でありました。

幸いにして、最終的に完成した点検・報告書については、全般に大きな不備もなく、それ相応な点検・評価ができたものと考えております。

4 回目となる今回の平成 23 年度（H22 年度対象）の点検・評価についても、これまでとほぼ同じ手法、工程により実施をし、本報告書を完成させました。

今後も検証を重ねながら、又、市民の皆様及び市議会の皆様などからご指導、ご助言を賜れば、改善していきたいと考えているところであります。

結びに、大変お忙しい中で、「点検・評価に関する有識者」をお引き受けいただき、大所高所から、又は具体的な部分にわたって貴重なご意見を述べていただきました上地多恵子様、棚原正榮様、比嘉悦子様に心から感謝を申し上げますとともに、これからも本市の教育行政の良きアドバイザーとして、お力添えをいただきますようよろしくお願いを申し上げます。

浦添市教育委員会